



NATIONAL SANATORIUM TAMA-ZENSHOEN
国立療養所 多磨全生園

創立110年を迎える ハンセン病療養所

国立療養所多磨全生園は、全国に13施設ある国立ハンセン病療養所のひとつです。1907（明治40）年に公布された法律に基づき、1909（明治42）年に第一区府県立全生病院（ぜんせいびょういん）として発足しました。1941（昭和16）年に当時の厚生省に移管され、名称も国立療養所多磨全生園（ぜんじょうえん）となりました。2019（令和元）年で創立110周年です。



当園では、入所者等のハンセン病後遺症、合併症、および高齢化に伴う心身の不調などに対応して診療、看護、介護等が行われています。

施設の理念・方針

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

基本方針

- 1 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- 2 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- 3 快適な生活環境の場を提供します。
- 4 職員の教育・研修に努めます。

患者の権利

- 1 人格を尊重した医療を受ける権利
- 2 医療に関する十分な説明を受ける権利
- 3 個人情報保護の権利
- 4 診療情報の提供を受ける権利
- 5 検査や治療等の自己決定の権利

ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」という病原菌により、皮膚や末梢神経がおかされる感染症です。

「らい菌」は感染力がきわめて弱く、衛生状態や栄養事情が良好な現代の日本では感染することも発病することもほぼありません。また、有効な治療薬が開発されており、仮に発病しても早期に発見し、適切に治療を行えば確実に治る病気となっています。

昔は日本でも発病することがあり、治療薬が現れるまでは、顔や手足が変形をきたし、重い後遺症を残すことがありました。

全生園長挨拶



国立療養所多磨全生園 園長 正木 尚彦

多磨全生園へお越しいただきありがとうございます。110余年の歴史をもつ当園は、東京・多摩地域にあり、遠く富士山を望むことができる縁多い施設です。

当園ではハンセン病に罹患した入所者が療養・生活しています。入所者は治療薬によってハンセン病は治癒しましたが、「らい予防法」によって療養所での生活が長くなって、高齢化し、障害もかかえています。入所者が安心して健康な生活ができるように医療、看護、介護を提供しています。

ハンセン病を知っていますか？ 効果的な治療法がまだ無い頃にこの病気に罹られた患者さんは、手足や顔面などが変化し、障害を持つなどのため、さらに法律によって長い年月にわたって隔離されたことで、いわれのない偏見・差別を受けてきました。隣接する国立ハンセン病資料館も是非見学なさってください。人権の大切さを理解し、偏見・差別のない社会が築かれるよう願っています。

全生園は地元の東村山市の方々をはじめ、日本・世界の方々に開かれた施設です。そして、全生園には緑あふれる自然があり、入所者や東村山市民を中心に緑化活動をしています。全生園の110余年の歴史を建物や史跡（納骨堂、男子独身舎（山吹舎）、神社、宗教地区建物、望郷の丘など）から学ぶこともできますので、園内を散策してください。さらに、お帰りの折には4000余名の眠る納骨堂へ立ち寄って、先人の靈に心寄せてください。

①事務本館



事務室、園長室、事務部長室、看護部長室などがあります。

②治療棟



入所者及び回復者が受診する外来各科が設けられています。

③病棟



1階に第1病棟、2階に第2病棟、3階は手術室と透析室になっています。他に第3病棟とやすらぎ病棟があります。

④公会堂 (コミュニティセンター)



全生園まつりなどの各種行事の会場として使用されています。

⑤福祉サービス棟



福祉課、医局、栄養管理室、入所者自治会があります。

⑥旧山吹舍



1928(昭和3)年に患者大工の手で建築されました。4軒長屋で1部屋12畳半です。

⑦宗教地区



入所者のお寺や教会の建つ地区。精神的な支えとなっています。

⑧桜並木



昭和30年3月に愛知県から贈られた苗木を植樹しました。

⑨納骨堂



入所者等の御靈を安置しています。

⑩望郷の丘



北条民雄の「いのちの初夜」にも登場する築山。かつて入所者がこの丘の上から郷里を望み家族を偲びました。

⑪全生学園跡



入所児童のための小・中学校(分教室)、昭和54年に最後の中学生が卒業しました。現在ゲートボール場やお祭り広場になっています。

園内のご案内

広大な敷地に治療棟・病棟や居住区などがあり、ところどころに園の歴史を伝える遺構が残されています。園内は緑にあふれ、春には桜並木にたくさんの人人が訪れます。



所在地
東京都東村山市青葉町4-1-1
創立
1909(明治42)年9月28日
敷地面積
358,116m²

入所者への医療の提供

ハンセン病や後遺症の治療だけではなく、高齢化および合併症に対応するため、臨床各科を備えた総合医療により、入所者や社会復帰者の健康を支えています。さらに、医療連携により専門的な医療に対応しています。

また薬剤、研究検査、放射線、リハビリテーションなどの各部門の充実にも力を入れています。



診察風景

主な診療科等

内科 外科 神経内科 整形外科 精神科 皮膚科 泌尿器科 眼科
耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 歯科
(人工透析なども行っています)

入所者に寄り添う看護と介護



看護部の職員は、入所者の不自由の程度、介護度、それぞれの障害に応じたサービスを提供し、入所者の健康と生活を支えています。また、看護職員それぞれの役割のもと、入所者中心の看護・介護が継続して実践できるように、自らの専門性を高め、知識・技術の習熟を図っています。

附属看護学校

当園には全日制2年課程の附属看護学校があり、生命の尊厳・人権の尊重と高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を養い、広く社会に貢献できる看護実践者を育成しています。



国立療養所多磨全生園附属看護学校

入所者の暮らし

入所者は軽症者、不自由者の居住区に分かれ、個室(独身、夫婦)にて療養生活を営んでいます。



センターでの生活



リハビリテーション活動

主な行事

四季折々に各種行事を行っています。

- 1月 ふれあい新年会
- 3月 附属看護学校卒業式
墓 参
- 4月 附属看護学校入学式
観桜会
- 5月 園内歩け歩け運動
- 7月 七夕の集い
- 8月 納涼祭
- 9月 敬老会
墓 参
- 10月 慰靈祭
全生園まつり(演芸)
園遊会
- 11月 全生園まつり
焼き芋会
- 12月 クリスマス会



観桜会



納涼祭



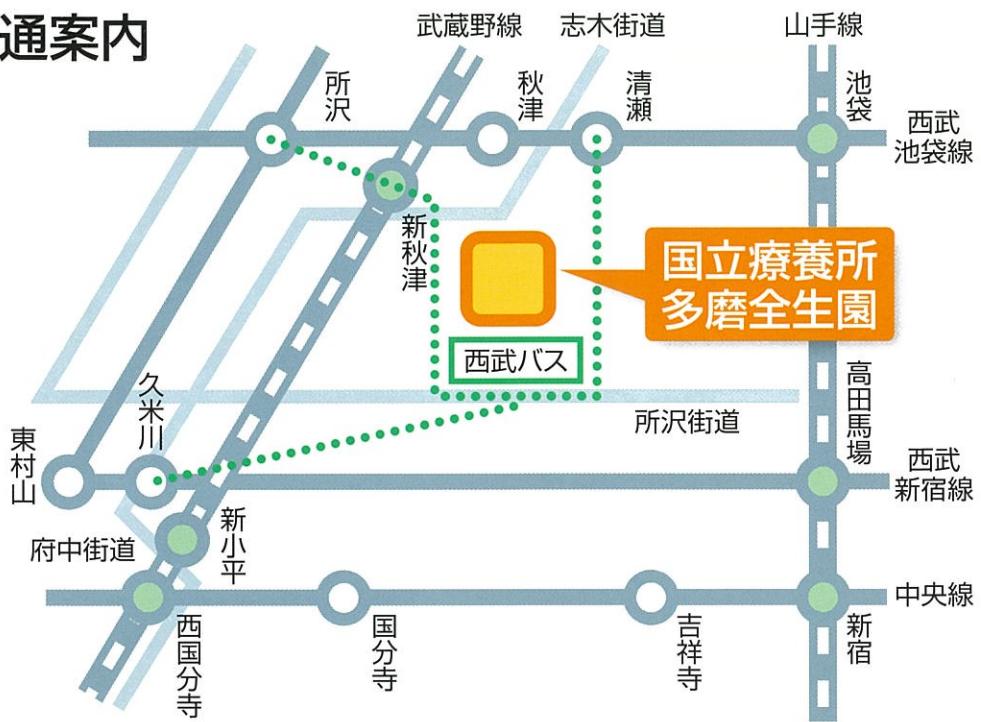
全生園まつり

園を取り巻く環境

当園は東京都東村山市の東北端にあり、清瀬市の西端に隣接、新宿の西方21km、埼玉県所沢市の東南方4kmに位置しています。設立した当初は武蔵野の雑木林に包まれた緑豊かな自然環境の中にありました。近年は周囲の道路整備や住宅化が進み、市街地に溶け込んだ療養所となっています。当園に隣接した場所には、国立ハンセン病資料館と国立感染症研究所ハンセン病研究センターがあります。



交通案内



●電車・バスにて全生園下車で来園の方

- 西武池袋線清瀬駅(南口)より西武バス久米川駅北口行き、所沢駅東口行きにて全生園前下車。
- 西武新宿線久米川駅(北口)より西武バス清瀬駅南口行き、所沢駅東口行き、新秋津駅行きにて全生園前下車。
- JR武蔵野線新秋津駅より西武バス久米川駅北口行きにて全生園前下車。

●車で来園の方

- 高速道路で、関越自動車道所沢ICより約30分。
- 都心から、新青梅街道～所沢街道を所沢方面へ、「全生園前」の信号の右当園正門。約1時間。

